

潰瘍性大腸炎の診断後1年未満の患者様へ

愛媛大学大学院医学系研究科疫学・予防医学講座では、平成27年度より厚生労働科学研究費・難治性疾患政策研究事業において、「潰瘍性大腸炎の発症関連及び予防要因解明を目的とした症例対照研究」班（研究代表者：三宅吉博）を主催しております。

喫煙や食事をはじめとする生活習慣や生活環境だけでなく、生まれながらの体質（遺伝因子）も病気のかかりやすさに関係していると考えられています。生活習慣と遺伝因子の両方に注目しながら、それらが潰瘍性大腸炎にどのような影響を与えているのかを解明することは、体質にあわせた潰瘍性大腸炎の予防法を進展させるために大変重要です。しかし、このような研究はまだ初期の段階にあり、日本人における科学的根拠（エビデンス）は十分ではありません。

質問調査票にご回答頂き、遺伝子解析用の口腔粘膜細胞の採取をお願い致します。潰瘍性大腸炎でない方からも同様の協力を頂き、潰瘍性大腸炎の患者様と潰瘍性大腸炎でない方の情報を、集団として比較することにより、潰瘍性大腸炎の原因を調べます。

潰瘍性大腸炎の診断後1年未満の患者様に限り、本研究にご参加をお願い致します。本研究にご参加頂けます方、また、参加するかどうかを決める前に詳しい説明をご希望の方は、下記の研究事務局にご連絡のほど、お願い申し上げます。研究にご参加頂けます方につきましては、主治医の先生に、診断日、投薬状況、重症度について、お問い合わせさせていただきます。

愛媛大学大学院医学系研究科疫学・予防医学講座
教授 三宅吉博

連絡先:

愛媛大学大学院医学系研究科疫学・予防医学講座内
研究事務局

古鎌 知（こがま とも）、宮内 理絵（みやうち りえ）

電話 089-960-5282

FAX 089-960-5284

メール epi-res@m.ehime-u.ac.jp